

令和2年度 赤穂市学校(園)評価 外部報告書

学校園名	赤穂市立原小学校
------	----------

1 本年度の学校経営方針

これからの社会は、グローバル化が一層進展し、情報技術の急速な発達加わり、変化が激しく予測困難な時代を迎える。そのような時代を生きる子供たちは、急激な社会情勢の変化に主体的に対応し、夢や志の実現に向け、未来への道を自ら切り拓いていく力を身につけていくことが必要である。第3期「ひょうご教育創造プラン」の基本理念や、赤穂教育プランの基本理念も念頭に置き、学校教育目標を「夢や志を抱き、自ら道を切り拓いていく児童の育成」とする。

学校教育目標を達成していくために、次の3点を学校経営の基本方針とする。

①児童が夢や志を抱き、目標をもって意欲的に学ぶ学校づくり
 ②教職員が、児童の指導や授業力の向上、学校運営の参画に達成感や有用感をもって取り組める学校づくり
 ③地域と学校が一体となって、コミュニティ・スクールとしての活動にやりがいをもって取り組める学校づくり

2 本年度の学校重点目標

1 確かな学力の育成	6 家庭・地域との連携及び協働
2 豊かな心の育成	7 チーム学校による対応の充実
3 健やかな体の育成	
4 キャリア教育の推進	
5 特別支援教育の推進	

総合的な学校園関係者評価

・PTAの現役時代、『人にやさしく、自分に強い子に』という語をよく覚えてもらっていた。学校経営方針にあるように、コロナのおかげで、社会の変化が社会の変化がより大きく早くなってきている。社会人になると、会社や社会生活でいろいろな環境の中で生まれ育ってきた人々と一緒に仕事をしていかなくてはならない。そんな中で自らの考えで自分自身をコントロールし、『自分に対して強いところ』をもつことが必要だと思う。原小校区は有年考古館をはじめ篠無山古墳や原・田中遺跡など史跡が多く、歴史上、重要な位置にあった地域。子ども達がこの自然と歴史に恵まれた地域で育ったことを誇りに思い、地域の後継者となってくれるよう地域の良さを取り入れた教育を希望する。

・コロナでいろいろな大変な事が増えている中、先生達も工夫されていて感謝している。子ども達が笑顔で過ごせて安心している。学校の様子を詳しく話してくれないので、学校よりだけが情報源なので来年度もお願いします。

・少人数ゆえの先輩達のやってきた伝統を大切にしたい。子ども達が相手の気持ちを思いやり、高学年になり中学校でもやさしさが身体中に充滿しているよう、コロナ禍ではあるが、学校、家庭、地域と手を取り合って頑張っていきたい。

・コロナ禍の中、いろいろな行事をどうすれば安全、安心に行えるか常に工夫し、子ども達の学校教育に教職員が一体となって頑張ってくれていることに頭が下がる。運動会を見学させていただき、子ども達はコロナを吹き飛ばし明るく元気いっぱい楽しそうに一人一人が輝いて頑張っている姿を見て感動した。これからは感染予防に対する危機管理に気を付けながら原小学校ならではの特色を生かしていただきたい。

・小規模校の特性を生かし、理想的な教育環境にあると思う。今の子は運動不足と感じるので、健やかな体の育成に取り組んでもらいたい。

・新型コロナウイルス感染症でいろいろな行事が制限される中、原小学校にあった学習が達成されていると思う。これからも達成されたことはより一層上を目指し、達成されていない事は達成できるよう頑張してほしい。

・5. 家庭・地域との連携、6. 学校運営の2つの評価項目がBになっていた。しかし、資料、学校自己評価、保護者アンケート、児童アンケートによると、どちらも評価はAでよいのではないかと。

・安全を第一に学校や保護者の取組で子ども達が毎日登校できることを嬉しく思う。限られた条件の中で、少人数を生かしての学習や体験をしていただきありがとうございます。学校よりを楽しみに読んでいただいている。

・コロナ禍で多くの制限ができてしまった今年度は、原小学校での特色ある行事、地域の方々とも深く共有できる行事がほとんど中止になってしまったが、その中でも児童のためにできる範囲での工夫をし、運動会や修学旅行などを行っていただき本当に感謝している。

・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の関係から、学校と関わる行事や地域行事が中止となり、児童とふれ合う機会がなかった。そのため評価はできませんでしたが、次年度に期待したい。

学校関係者評価

3 自己評価結果(A~D) A: 達成した B: ほぼ達成した C: あまり達成できなかった D: 達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
	項目	指標						
1 確かな学力の育成	①一人一人の考えを大切にし、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり	項目	児童が相互に学び合う場を数多く設定し、互いの考えや価値観を高め合えるよう授業の工夫をしているか。	アンケート	A	◎	◎	・教職員の方が情報を共有され、工夫して指導されていることがアンケートから見ることができ安心した。これからは継続していただきたい。あらゆる事で読解力は必要となってくるので、読書の習慣が付いているようである。
		指標	友達とともに学ぶ楽しさや価値を感じている。					
	②学習習慣や知識・技能の定着	項目	基礎学力の向上のために継続的な指導を行ったり、読書活動の推進を図ったりしているか。	アンケート・児童のノート・テストの結果				
2 豊かな心の育成	①道徳教育・特別活動の充実	項目	物事の見方や考え方を深め、事象に対する自分の考えや思いを豊かに表現する力が育っているか。	アンケート・児童のノート・日記・文集・作文	B	◎	◎	・どうしても少人数では6年生まで一緒にあり、序列が良い悪いあるが、できることが多い。そこあたりは先生の目線をもってして公平にお互い何でも言い合えるよう指導してほしい。
		指標	授業の学びを自分の言葉で伝えたり書き表したりすること、日記や作文で自分の思いや考えを表現したりすることができる。					
	②自分も友達も大切にし、共に生きる人権教育を全領域で推進	項目	児童一人一人の考えを尊重するとともに、児童がお互いの良さががんばりを認め合える授業を実践しているか。	アンケート・授業参観				
3 健やかな体の育成	①体力・運動能力の向上を図る	項目	児童一人一人の考えを尊重するとともに、児童がお互いの良さががんばりを認め合える授業を実践しているか。	アンケート	A	◎	◎	・家へ帰れば外へ出ない子が多い。体力作りをしていない。学校でできるだけ基礎的な体力作りを考え、実施してもらいたい。(ストレッチの習慣付け、記録を付ける等)
		指標	全ての児童が、学習する楽しさを味わったり、自己の成長を感じたりすることができる。					
	②健康教育の推進	項目	合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。	アンケート				
3 健やかな体の育成	①体力・運動能力の向上を図る	項目	児童一人一人の考えを尊重するとともに、児童がお互いの良さががんばりを認め合える授業を実践しているか。	アンケート・児童の様子	A	◎	◎	・近年の学童期のスマホやネット機能の付いたゲーム機の使用増に伴い、ネットトラブル(SNSトラブル)が多発している現状があるので、情報モラルについて、児童・保護者対象の研修会を設定する。
		指標	自分で友達の良いところに目を向け、互いに認め合ったり励まし合ったりしながら学習に取り組むことができる。					
	③安全教育的推進	項目	合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。	アンケート				
3 健やかな体の育成	②健康教育の推進	項目	合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。	アンケート・児童の様子	A	◎	◎	・近年の学童期のスマホやネット機能の付いたゲーム機の使用増に伴い、ネットトラブル(SNSトラブル)が多発している現状があるので、情報モラルについて、児童・保護者対象の研修会を設定する。
		指標	「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、生活リズム・栄養バランス等を整えている。					
	③安全教育的推進	項目	合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。	アンケート・児童の様子				
3 健やかな体の育成	③安全教育的推進	項目	合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。	アンケート	A	◎	◎	・近年の学童期のスマホやネット機能の付いたゲーム機の使用増に伴い、ネットトラブル(SNSトラブル)が多発している現状があるので、情報モラルについて、児童・保護者対象の研修会を設定する。
		指標	「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、生活リズム・栄養バランス等を整えている。					
	③安全教育的推進	項目	合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。	アンケート				
3 健やかな体の育成	③安全教育的推進	項目	合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。	アンケート	A	◎	◎	・近年の学童期のスマホやネット機能の付いたゲーム機の使用増に伴い、ネットトラブル(SNSトラブル)が多発している現状があるので、情報モラルについて、児童・保護者対象の研修会を設定する。
		指標	地震や火事、津波などの災害時にどのように行動すればよいか知り、行動できる。					

4	主体的な態度の育成	①豊かな体験活動の充実	項目 学校が、地域の拠点としての役割を担うことができているか。 指標 地域の良さや、地域の方々に支えられていると感じることができている。	アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> ・原小太鼓、学校田や学年田での米作りや学年園での野菜づくり等、原小学校の特色ある体験活動を継続していく。 ・コロナ禍の影響で地域の方との活動が制約される中、より効果的な方法を模索していく。今後も地域の方をゲストティーチャーに迎え、地域の産業、特に農業体験を中心にしたキャリア教育に取り組む。 	◎ ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーを迎え、児童が実際に体験する学習を取り入れていくのはとても有意義なものだと思う。 ・コロナ禍により、どうしても小規模になるがどんな形でも伝統を大切に継続していくことを切に願う。
		②グローバル化に対応した教育の充実	項目 郷土を愛する心を育てられるように、地域教材を生かした学習単元を設定し実践しているか。 指標 地域への愛着や誇りを持つことができている。	アンケート				
		③各学年の発達段階に応じ、自分の生き方を考えるキャリア教育の推進	項目 自分の将来や仕事について考えるキャリア教育に取り組み、自立心を高めているか。 指標 自分の将来の姿を考えたり、働くことに対する関心を高めたりすることができている。	アンケート				
5	家庭・地域との連携	①家庭・地域・専門機関と連携した開発的生徒指導の推進	項目 あいさつや日常的な声かけなどを通して、児童と信頼関係を築けているか。また組織的な生徒指導体制を整え、規範意識の醸成・他者を思いやる心の育成に努めることができているか。 指標 安全に気をつけ、明るく元気に学校生活を送り、自らあいさつすることができる。	アンケート・児童観察	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に向け、学校教育活動に興味をもってもらえるよう、学校だよりの配付、ホームページの充実を図る等、情報を発信していく。 ・学校でも地域でも「自分から笑顔で挨拶」を生活目標に掲げ、継続して指導してきた。結果、進んで挨拶できていると答えた児童が増えてきた。来年度も継続して目標に掲げるようにする。 ・児童に関して、保護者との連絡を密に取り合い、丁寧に対応することで信頼関係を築いていく。 	◎ ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の学校での表情が読み取れる学校だよりはいつも楽しく拝見させてもらっている。先生方がこまめに連絡メールを送ってくださって安心できる。 ・本年度の学校重点目標が7つに対して自己評価の観点(重点目標)が6つである。学校重点目標に沿って、「5」の特別支援教育の推進についても、項目、指標、改善の方策が必要と感じる。 ・評価が「B」になっているが、「A」でよいと思う。 ・学校だよりに、担任の先生の一言を載せてもらえたら、よりよいのでは。(校長先生の感じ方、思いだけでなく2～3行でも) ・学校が取り組んでいる状況、子ども達が実施してきたこと、実施しようとしている内容を適確に情報発信していること(毎月の行事等)は高く評価している。 ・学校・家庭・地域と一緒に、より一層笑顔の挨拶を推進していく。 ・地域の人には知らず顔で、先生の前でだけ元気に挨拶する子がいる。 ・学校だよりは、地区の方が見るには文字が小さかったり、写真が分かりにくかったりと思う。 ・保幼小中の学校間のスムーズな移行のため、連携、協働は意義があると思うので、大切にしたい活動だと思う。 ・協力的な地域の人材を、本当に上手に活用されていると思う。
		②保幼小中との連携	項目 相互の発達段階を考慮した活動を行い、児童に自分の在り方について考える機会を設けているか。 指標 今の自分の姿を見つめたり、将来の自分の姿を考えたりすることができる。	アンケート・児童観察				
		③学校の取組の発信と学校評価	項目 学校は地域や保護者に学校教育方針や児童の活動の様子をわかりやすく伝えているか。また、学校に対する評価や要望に真摯に対応しているか。 指標 保護者や地域の方が、学校は学校だよりやHP、オープンスクールなどで、学校の様子を分かりやすく伝えていっていると感じている。	アンケート				
6	学校運営	①人権を大切にする学校づくり	項目 人権尊重の視点に立った環境づくりに努め、学校長を中心に、組織的に学校運営がなされているか。 指標 自他を尊重し、よりよく生きようとする児童の育成に向けて、職員が協働的に教育活動に取り組んでいる。	アンケート・学校評価資料	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、熱心に職務に励んでいるが、勤務時間を超過して従事している場合が多い。緊急事態宣言解除後は特に超勤が目立つ。会議や行事等の見直し、精選を行い、業務の効率化を図り、児童と向き合う時間の確保と職員のワークライフバランスの実現に向け、勤務時間の適正化に努める。 ・業務改善推進委員会を中心に変革に努めていくとともに、定時退勤日の完全実施を実現していく。 	◎ ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化による時間短縮は非常に大切だと思うが、今まで同様、子ども達と触れ合っていたきたい。 ・評価が「B」になっているが、「A」でよいと思う。 ・先生達も特にコロナ禍で大変なのは分かるが、健全育成と言えるように休養も大切。時間の制約もありますが、学校ぐるみで無理承知でないといないと絶対できない。
		②家庭・地域と共に歩む学校づくり	項目 開かれた学校づくりに努め、地域と共に歩んで行こうとする姿勢が見られるか。 指標 学校評価等を有効に活用するなど、積極的に地域の声を取り入れている。	アンケート・学校評価資料				
		③学校の組織力の向上	項目 学校教育目標の具現化に向け、課題と成果の共有化を図っているか。 指標 教師一人一人のモチベーションを生かし、児童の活躍の場を大切にした取り組みが行われている。	アンケート・職員提案資料				
		④学校業務改善の推進	項目 校務の効率化を図り、勤務時間の適正化に努めているか。 指標 PDCAサイクルによる業務の見直しや改善を行い、超過勤務の縮減に努めている。	記録簿				
		⑤教職員の資質向上	項目 他人の意見に耳を傾け、使命感と熱意を持ち、指導力・授業力を高めようと努めているか。 指標 児童や保護者・同僚の意見に耳を傾け、自省しながら日々の教育活動の充実にもむけた取り組みが行われている。	アンケート・研究授業・校内研修				

自己評価における特記事項

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、児童の活動・行事が制限される中、創意工夫し、児童が毎日楽しんで学校に来ることができたことがよかった。
- ・コロナウイルス感染症の影響で、特色ある活動が制限され十分ではなかったが、「チーム学校」としてできるだけ環境整備に努めた。
- ・特別支援教育の推進に向け、講師を招聘しての研修等ができてよかった。今後の対策について、更なる課題解決が必要である。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・コロナ禍で実現することのできなかった地域の方々との共同行事を、下状況が改善されれば、どんどん行っていただきたい。
- ・先生方がコロナウイルス感染防止対策等、学校での取組も大変であると思うが、トータル的にみてもよく頑張っていると思う。
- ・自分から笑顔で挨拶を学校目標に掲げているが、登下校中の挨拶の声が大きくなってきたように思う。我々地域住民も努力しなければいけないと思う。